



「ゲーム, スマホ警報」を発令！ 校長 吉見 一弥

本日7月31日をもって、令和2年度1学期の授業を全て終了しました。新型コロナウイルス感染症に翻弄され続け、異例尽くめの1学期でしたが、子どもたちが笑顔で今日の終業式を迎えられたことを心からうれしく思います。

各担任が臨時休業による学習の遅れを取り戻すために、全力を挙げて授業を進めてきました。そして、子どもたちもそれに応えようと精一杯学習に取り組み、一人一人が着実に成長することができました。今日の終業式では、1学期頑張ったことを映像で振り返りながら、成長の喜びをみんなで分かち合いました。

一方で、以下のように生活面や行動面で気になる状況もありました。

- 朝から疲れた表情だな。顔色もよくないぞ。(疲れているのかな。)
- まだ1時間目なのに、何回もあくびが出ている。眠そうだな。(昨日よく眠れなかった?)
- 友達同士の会話を聞いていると、言葉遣いが気になるなあ。(ソーシャルゲームの影響?)

朝からあくびをしていたり、表情がさえないかたりする子どもに話を聞いてみると、「夜の12時過ぎまでゲームをしていた」、「SNSやアプリをしていて気付いたら夜中になっていた」、「朝3時頃に起きて動画サイトを見ていた」など、「メディア中毒」に陥りかねない危険な状況にあることが分かってきました。さらに、ソーシャルゲームの課金システムで万単位の請求があった、不適切なサイトへ接続した、友達以外の第三者に不用意にメールを送り問題になった等の事例も起きています。



これらの問題は、新型コロナによる臨時休業で、子どもたちのスマホやゲーム、SNS等の時間が大きく増えてしまったことによるものと捉えており、夏休みを控えて、私たちは強い危機感を抱いています。家庭と学校がしっかり連携して子どもたちを守っていかねばなりません。学校では、「メディアとの関わり方」について今後も粘り強く指導を続けてまいります。

そして、何よりも「親」としての毅然とした対応も大切です。制限をかけようとすれば、お子さんの反発もあるでしょう。しかし、お子さんにとって良くない状況があるのであれば、「あなたを守ることになるのだから、**だめなものはだめ!**」と、時には強い言葉かけも必要です。

先日行われた有明中校区3校PTA連絡会の中で、中学校から、「中学生になってからゲーム・スマホの制限をかけようとしても、非常に難しい。小学生の時期から啓発を!」という話がありました。学年が上がれば上がるほど「メディアコントロール」は困難になってきます。小学生の今の時期こそ、改善の余地はあります。

まずは、お子さんとゲーム・スマホ等の使い方について改めて話し合ってください、以下の三つを実行しましょう。

メディアと上手につきあって、充実した夏休みになることを心から願っています。



- メディア(ゲーム, スマホ, SNS等)は、合わせて1日1時間まで。
- メディア(ゲーム, スマホ, SNS等)は、夜9時まで。(9時以降は親が管理)
- メディア機器は、子どもが使わない間は、親が管理する。

お子さんの

○ 今一度、ご確認ください。

お子さんとゲーム・スマホとかかわりについて、親としての立場からチェックしてみましょう。

数年前の私の子ども話になりますが、「高校の入学がスマホ解禁」のような暗黙の それに
しかし、自分の子どもに買い与えました。

しかし、今や所持率の低年齢化が進み、

まだ、判断力や情報選択能力が十分備わっていない小学生に、大きなリスクが生じるということ、

8月から夏休みに入ります。いつもより少し短い休みですが、この期間で、さらに、「スマホ・
ゲーム依存」が進む心配が大きいです。

今一度、お子さんと、ゲーム・スマホ等とのかかわりについて、ここで、子どもに負けてはい
けません。

もし、望ましくない状況が見られるのであれば、ここで
親として、「駄目なものは駄目。」毅然にお子さんと向き合い、

中学校の生徒指導担当者が「ケータイは、百害あって一利なし」、いじめ、依存、非行、犯罪
等、あれから二十数年、ケータイに変わってスマホが

「ゲーム依存症」、あるいは「ゲーム障害」とは、日常生活が破綻するほど、持続的、
反復的にゲームにのめり込んでしまうことを指す。今年6月18日、WHO（世界保健機
構）は、この「ゲーム依存症」を精神疾患として正式に認定した。

今世紀に入ってから、人間の生活を劇的に便利にしたスマホ——その中に潜んでいた悪
魔に一人息子を虜にされてしまったライターが、あまりにこの疾患にたいして無防備な
日本社会に警鐘を鳴らすため、現在進行形で続く「ゲーム依存症」との戦いをレポート
する。

- お子さんが1日にするゲームやスマホの時間は、1時間以内ですか。
- フィルタリングなど必要に応じて制限をかけていますか。
- ゲームやスマホの時間は、親の目の届く範囲内で使用させていますか。
- お子さんがどんなゲームやアプリをしているか把握していますか。
- ゲームによっては、課金のシステムがあることを理解していますか。
- お子さんのゲームやスマホに係る料金は、常識の範囲内ですか。
- お子さんがSNSでどんなやりとりをしているか把握していますか。
(または、「SNSを使わせていない。」)
- 21:00以降、ゲームやスマホはさせないようにしていますか。
- メディア機器は、お子さんが使用しない間、親が管理していますか。
- 上記を含めた「家庭内ルール」を決め、守らせていますか。

チェックの数 8～10 青信号 今の取組を継続しましょう。でも、油断は禁物
5～ 7 黄信号！スマホ・ゲーム中毒やトラブルの可能性あり
4以下 赤信号！スマホ・ゲーム中毒やトラブルの危険大